

[4] 諸外国との比較

参考:[イギリス]英国映画協会(BFI)“Statistical Yearbook” [フランス]フランス国立映画センター(CNC)“Results2015”
 [ドイツ]ドイツ映画振興協会(FFA)“Die FFA-Förderungen” [韓国]韓国映画振興委員会(KOFIC)「한국영화산업 결산」
 [日本]日本映画製作者連盟(映連)「日本映画産業統計」 [アメリカ](カナダ)アメリカ映画協会(MPAA)“Theatrical Market Statistics”
 ※「入場料金・興行収入(2012年)」については、「映画年鑑2015」を参照した。

ここでは、日本の映画館での上映の状況を諸外国と比較してみる。

■観客数

2015年の年間の観客数についてみると、5カ国の中で最も多いのは韓国で、2億1335万人で、日本は4位で、1億6663万人となっている。日本の人口は1億2730万人で、他の4ヶ国を大きく上回っていることを考えると、他の国に比べて観客数がやや少ないといえることができる。

国民1人が1年間に映画を見る本数を比較してみても、日本はかなり少ない。トップは韓国で4.2本、アメリカでも大体4本を見ているのに比べて、日本人の年間鑑賞本数は1.3本にとどまっている。データの取り方等が一樣であるとはいえ、単純に比較することはできないにせよ、これらの数値をみる限り、日本人は他の国民に比較して映画館で映画を見る本数が少ないといえることができる。また、このことは、日本にはまだ観客開拓の余地があることを示している。

諸外国との比較[観客数]

	フランス	イギリス	ドイツ	韓国	日本
人口(2013年)	6533万人	6411万人	8058万人	5022万人	1億2730万人
2006	188,800	156,600	136,700	153,410	164,585
2007	178,400	162,400	125,400	158,780	163,193
2008	190,200	164,200	129,400	150,830	160,491
2009	201,400	173,500	146,300	156,960	169,297
2010	206,300	169,200	126,600	129,180	174,358
2011	215,590	171,600	129,600	159,720	144,726
2012	203,560	172,500	135,100	194,890	155,159
2013	192,790	165,500	129,700	213,350	155,888
2014	208,970	157,500	121,700	215,060	161,116
2015	206,060	171,900	139,200	217,290	166,630
増加率(2006～2015)	109%	110%	102%	142%	101%

諸外国との比較[年間鑑賞本数]

	アメリカ	フランス	イギリス	ドイツ	韓国	日本
2006	4.3	3.2	2.6	1.7	3.1	1.3
2007	4.3	3	2.7	1.5	3.2	1.3
2008	4.1	3.2	2.7	1.6	3.0	1.3
2009	4.2	3.4	2.8	1.8	3.2	1.3
2010	4	3.5	2.7	1.6	2.9	1.4
2011	3.8	3.6	2.7	1.6	3.2	1.1
2012	3.9	3.4	2.7	1.7	3.8	1.2
2013	3.8	3.2	2.6	1.5	4.2	1.2
2014	3.6	3.1	2.4	1.5	4.2	1.3
2015	3.9	3.1	2.6	1.7	4.2	1.3

■映画館数・スクリーン数

「スクリーン数」は、アメリカが他の国に比べて圧倒的に多く、日本の10倍以上の40,547スクリーンとなっている。他の5ヶ国の中でスクリーン数が最も多いのはフランスで、5741スクリーン。ドイツを除くいずれの国も、シネコンの増加により、この10年間、スクリーン数は増加し続けている。特に韓国の増加率は著しい。

人口を、スクリーン数で割った数字「1スクリーン当たりの人口」をみってみる。この数値が少ないほど、スクリーンが多い、身近にスクリーンが存在しているとみることができる。この数字によると、日本は、6ヶ国の中で、もっとも「映画館が遠い」、身近に映画館が「ない」国だといえることができる。最も多いアメリカは7817人に1スクリーン、フランスは1万1380人に1スクリーン、韓国でも2万718人に1スクリーンであるのに、日本は3万7038人に1スクリーンと極端に少ない。

中小都市から映画館が無くなったのは、観客数が減少したことによる。しかし、シネコンの増加＝スクリーン数の増加は、必ずしも観客数の増加につながってはいない。映画館が身近にないから映画館に行かない、行けない、だから観客が増えないとみることもできるだろう。

1スクリーン当たりの観客数をみると、最も多いのは韓国で、8万9641人、日本の4万8481人の約2倍である。日本は10年前に比べるとスクリーン数が400近く増加しているにも関わらず観客はさほど増えていないので、スクリーン当たりの観客数は、その数値を下げている(53,751人→48,481人)。

諸外国との比較 [スクリーン数]

	アメリカ	フランス	イギリス	ドイツ	韓国	日本
2006	38,415	5,308	3,440	4,848	1,880	3,062
2007	38,974	5,300	3,514	4,832	1,975	3,221
2008	38,834	5,332	3,610	4,810	2,004	3,359
2009	39,233	5,424	3,651	4,734	2,055	3,396
2010	39,547	5,478	3,671	4,699	2,003	3,412
2011	39,580	5,467	3,767	4,640	1,974	3,339
2012	39,662	5,508	3,817	4,617	2,081	3,290
2013	40,024	5,588	3,867	4,610	2,184	3,318
2014	40,285	5,647	3,909	4,637	2,281	3,364
2015	40,547	5,741	4,046	4,692	2,424	3,437
増加率(2006～2015)	106%	108%	118%	97%	129%	112%

諸外国との比較 [1スクリーン当たりの人口]

	アメリカ	フランス	イギリス	ドイツ	韓国	日本
人口	3億1694万人	6533万人	6411万人	8068万人	5022万人	1億2730万人
スクリーン数	40,547	5,741	4,046	4,692	2,424	3,437
人口/スクリーン	7,817	11,380	15,845	17,195	20,718	37,038

諸外国との比較 [1スクリーン当たりの観客数]

	アメリカ	フランス	イギリス	ドイツ	韓国	日本
2006	33,816	35,569	45,523	28,197	81,601	53,751
2007	33,360	33,660	46,215	25,952	80,395	50,665
2008	32,160	35,671	45,485	26,902	75,264	47,779
2009	33,871	37,131	47,521	30,904	76,380	49,852
2010	31,725	37,660	46,091	26,942	64,493	51,101
2011	30,196	39,435	45,553	27,931	80,912	43,344
2012	31,773	36,957	45,193	29,261	93,652	47,161
2013	31,298	34,501	42,798	28,134	97,688	46,983
2014	29,354	37,005	40,292	26,245	94,283	47,894
2015	30,233	35,893	42,486	29,668	89,641	48,481
増加率(2006～2015)	89%	101%	93%	105%	110%	90%
増加率(2011～2015)	100%	91%	93%	106%	111%	112%

多様な「映画館」のあり方

欧米のスクリーン数の中には通常の興行館以外の公共文化施設や公共映画館のスクリーンも含まれていると推定される。殊にヨーロッパにおいては、映画館＝興行館(日本の興行館のように毎日5～6回上映する映画館)ではない。パリ近郊オーヴェルヴリエ市にある市民文化会館付属の映画館は市が運営する映画館で、木曜日は休館日、月、火、水、金曜日は1日2回または1回上映、土曜日は3回、日曜日は2回上映という運営をしていた。パリ市が運営する「フォーラムデイマージュ」には、3つの上映用のスクリーンがあるが、毎日4回上映をしているのは1スクリーンのみで、このスクリーンでは、毎月テーマを決めて特集上映が行われていた。(「21世紀の芸術振興策を考える—芸術振興のための法と制度 中間報告書 ヨーロッパの映画振興を中心に」(2002))また、パリにある映画館「ユルシュリーヌ」は、“子どものための映画館”として運営されており、学校が休みの水曜日と土曜日しか開館しない。他の日は、学校の団体鑑賞などに使われている。(「諸外国及びわが国における映画教育に関する調査 中間報告書」(2005))こういった、多様な映画館＝スクリーンのあり方が、日本の4倍というスクリーン(映画館)数の存在の背景にあることを見落としてはならない。

ドイツやイギリスも、フランスほどではないにせよ、統計上の数値としてカウントされているスクリーン(映画館)のあり方は、日本のように一様ではない。運営主体も運営方法も様々であり、多様な映画館を支える文化政策、上映振興制度も存在している。

ドイツの映画館については、165ページ以降のレポートを参照。

■ 入場料金・興行収入(2012年)

入場者数では下位にある日本であるが、興行収入はアメリカ、中国に次いで世界第3位となっている。ここで目立つのが、他国に比べて入場料金が1258円と飛びぬけて高いことである。アメリカで637円、フランスは659円、イギリスでさえ808円である。映画館の入場料は、他の物価と比較して高いとはいえないという見方もあるが、他国と比較すると非常に高額であることがわかる。フランスでもアメリカでも1200円以上の入場料金をとる映画館は存在する。入場料金の「平均」が637円なのである。他国の場合、映画館のあり方の多様さが、料金設定の多様さをも可能にしている。

また、1スクリーン当たりの興行収入に注目してみると、日本が約6000万円であるのに比して、フランスは2400万円、イギリスは3600万円とかなり低いことがわかる。これらの国では、映画館への支援制度が確立されており、興行収入以外の収入(公的な支援や他の事業収入等)の占める割合が日本に比べて非常に高い。例えば、やや古い情報になるが、前出のオーヴェルヴリエの市民映画館の場合、総収入のうち入場料収入は約30%で、それ以外は市や県、国の助成金である。また、イギリス・ブリストルにある映画館「ウォーターシェッド」は、入場料収入の割合は10%ほどである。公的な助成の割合は25～30%で、国、地方、市、EUと様々なレベルで支援を受けている。さらに、カフェ収入が25%、貸会場収入が25～30%と、他事業の収入が高い割合を占めている。

諸外国との比較 [入場料金・興行収入 (2012)]

	平均入場料金 (円)	興行収入 (円) 1ドル=80円 ※2012年	入場者数	スクリーン数	1スクリーン興収
日本	1,258	195,190,000,000	155,160,000	3,290	59,328,267
イギリス	808	139,448,000,000	172,500,000	3,858	36,145,153
ドイツ	795	107,432,000,000	135,100,000	4,617	23,268,789
フランス	659	134,136,000,000	203,440,000	5,502	24,379,498
アメリカ	637	782,560,000,000	1,229,000,000	39,918	19,604,189
ロシア	595	94,576,000,000	158,920,000	3,862	24,488,866
韓国	531	103,432,000,000	194,890,000	2,081	49,703,027
中国	461	216,448,000,000	470,000,000	14,482	14,946,002
ブラジル	451	67,152,000,000	148,910,000	2,517	26,679,380
メキシコ	436	64,992,000,000	148,910,000	5,360	12,125,373
インド	48	127,552,000,000	2,641,240,000	11,065	11,527,519

『世界主要各国映画諸統計』(映画年鑑2015)より

■シネコンの割合

全スクリーンに占めるシネコンの割合をみると、4ヶ国、いずれもシネコンは増えている。特に韓国は、シネコンが95%近くを占め、映画館のほとんどがシネコンとなっている。フランス、イギリスもシネコンは増えているが、その割合は、韓国ほど高くない。フランスは非常に低く約40%、イギリスでも76.5%で、シネコン以外の映画館も25%近くを占めている。

日本では、1993年にシネコン第1号ができて以降、スクリーン数は1753スクリーンから2015年には3437スクリーンに倍増、シネコンがそのうち2996スクリーン、87.2%を占めるにいたっている。

一方で、映画館数は1993年の1340館から2015年には580館と大幅に減少し、スクリーンの極端な集中、偏在が進んでいる。フランスやイギリスでも同様の現象は起こっているが、日本ほど極端ではなく、館数ではシネコン以外の方が、はるかに多いことがわかる。

諸外国との比較 [シネマ・コンプレックスの割合 スクリーン数]

		2003	2005	2007	2009	2011	2013	2015
日本	スクリーン数	2,681	2,926	3,221	3,396	3,339	3,318	3,437
	シネコンの数	1,533	1,954	2,454	2,723	2,774	2,831	2,996
	割合	57.2%	66.8%	76.2%	80.2%	83.1%	85.3%	87.2%
韓国	スクリーン数	1,132	1,648	1,975	2,055	1,974	2,184	2,424
	シネコンの数	—	—	1,336	1,833	1,844	2,072	2,292
	割合	—	—	67.6%	89.2%	93.4%	94.9%	94.6%
フランス	スクリーン数	5,299	5,308	5,332	5,482	5,467	5,588	5,741
	シネコンの数	1,549	1,708	1,810	1,968	2,026	2,171	2,330
	割合	29.2%	32.2%	33.9%	35.9%	37.1%	38.9%	40.6%
イギリス	スクリーン数	3,318	3,357	3,514	3,651	3,767	3,867	4,046
	シネコンの数	2,362	2,453	2,578	2,735	2,833	2,915	3,096
	割合	71.2%	73.1%	73.4%	74.9%	75.2%	75.4%	76.5%

諸外国との比較 [シネマコンプレックスの割合 映画館数]

	シネコン*	シネコン 以外	合計館数
日本	341	239	580
韓国	317	71	388
フランス	203	1830	2033
イギリス	316	435	751

* シネコンの定義

日本…5スクリーン以上の映画館

韓国…CGV、ロッテシネマ、メガボックスの系列劇場に7つの劇場を加えた数

フランス…8スクリーン以上の映画館

イギリス…シネコン：5スクリーン以上の映画館、シネコン以外：一時的に映画を上映している施設も含む

■公開本数

日本の公開本数は、この10年間で倍増している。日本映画製作者連盟(映連)発表の数字によると、2005年は731本、2015年は1136本となっている。韓国は10年前の298本から、2015年には1095本と異常な伸びを示している。それと比較すると、イギリス、フランス、ドイツは増えているとはいえ、日本ほど急激な増加はない。特にフランスは、現在も654本で、1本当たりの入場者数もそれほど下がっていない。

諸外国との比較 [公開本数]

		2005	2010	2015	自国映画	外国映画
日本	公開本数	731	716	1,136	581	555
	入場者数	160,453,000	174,358,000	166,630,000	51.1%	48.9%
	入場者 / 1本	219,498	243,517	146,681		
韓国	公開本数	298	426	1,095	232	944
	入場者数	145,520,000	149,180,000	217,290,000	19.7%	80.3%
	入場者 / 1本	488,322	350,188	198,438		
フランス	公開本数	550	579	654	322	332
	入場者数	175,630,000	205,110,000	205,300,000	49.2%	50.8%
	入場者 / 1本	319,327	354,249	313,914		
イギリス	公開本数	467	557	712	209	759
	入場者数	164,700,000	169,200,000	171,900,000	21.6%	78.4%
	入場者 / 1本	352,677	303,770	241,433		